

清和書道会

毛筆・実用ペン字・写経・かき方
初心者から技能の向上を目指す方まで



水曜・土曜 午前10時から午後4時
○高野山競書大会 (毎日新聞社後援) 他出品
○各種筆耕を承ります。
URL kotoku-jinja.jp/seiwa

鎌ヶ谷女性サークル 楽遊会



毎週火曜 午後1時から午後4時
手芸作品づくりとお茶会で和気あ
いと楽しい時間を過ごします。



「干支午」 紀雀

こうとくまなびの杜

お問い合わせ (社務所)
Tel 047-444-6750 info@kotoku-jinja.jp

自己肯定力を育む 神尾塾



「本気」の生徒を「本気」でのばす
小・中・高 受験と補習の個別指導
URL kotoku-jinja.jp/kamiojuku

遊画の会

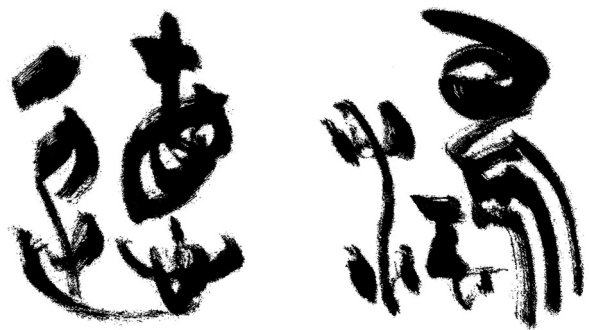


水彩色鉛筆で絵手紙を描きます。
顔彩を用い色紙にも挑戦します。
毎週木曜 午後1時から午後4時

こうとくにんげん塾



日常を豊かに生きるための
こころの学びの時間
第1・3日曜 午前11時から午後1時
URL kotoku-jinja.jp/ningen.html



題字 青山 杉雨 先生

鴻徳神社について

鴻徳神社の御祭神である五穀大明神(五穀様)は災厄を払い、智慧と福德を授ける靈験あらたかな御神霊であります。皆様の厚いご信心により大神様のご神徳に浴されますよう祈念いたします。

鴻徳神社は昭和五十七年八月、東京深川木場の材木商板東政雄・ふみおご夫妻の篤志により多くの方々のご力添えを得て創建され、五穀大明神(五穀様)を主祭神として同年十月一日深更に御鎮座されました。御祭神は故田中光雄先生が東京都赤羽にて在宅神として奉斎され、鴻徳神社創建に際し御分霊致しました。五穀さま崇敬信徒の会「悟法会」では会員相互に相図り、この尊い神様を世間にお出しし一人でも多くの方に御神徳に浴さしめご利益を頒ち合いたいとの念を抱いて参りました。私共は先人達の意思を継ぎ、ご靈験あらたかな五穀さまの御座します御社を現実の姿として眼の当りにした現在、鴻徳神社の存在価値を公的に認められ、宗教体として確固とした礎を築き、初富の岡に後の世まで末永く御鎮座頂くように願っております。

年間行事

一 月 歳旦祭 さいたんさい
(元日午前零時)

六 月 夏越の大祓 なごしのおおほらえ

十 月 式年祭 しきねんさい
(五穀さまのご鎮座日)

十二月 師走の大祓 しほすのおおほらえ

毎 月 月次祭 つきなみさい
(第一・三日曜午前十一時)

どうぞご参拝に
お出掛けください。



社報 平成26年新春 (第23号)
発行 鴻徳神社社務所 〒273-0122
千葉県鎌ヶ谷市東初富1丁目10番28号
TEL/FAX 047-444-6750 WEB kotoku-jinja.jp



こうとくにんげん塾

2013年の「孟子」の魯威におののき人間の力ではどうにも出来ぬと考えた、ある支配力に

孟子より

以下、徳間書店「

中国の思想」シリ

です。中国の思想」シリ

トーズから抜粋しなが

る読んでいく。

「人間は自然

の脅威におののき

人間の力ではどう

にも出来ぬと考え

た、ある支配力に

名づけたのが「天命」の始まりである。

天命はそれ自体で存在するものではなく

人間の行為によつてはじめて存在化する

ものである。天命は宿命ではない。天命

を天命たらしめるのは人間の努力なのだ。

無秩序な社会を作るのも人間なら、理想

の世を作るのもまた人間である』

…この部分。天命とは自動的に受身の形で天から与えられるものではなく自分の努力次第だという点。人生は自分の努力次第でどうにでもなると言っている。

【2】『人間の本性が善である、という命題は決して現実の人間が善であることを意味しない。個人にそなわる天命を全面的に開花させるためには人格完成のための努力が必要である』

…性善説。「人格完成のための努力」

がなければ天命は日の目を見ないと言っている。この点重要なので、もう少し詳しく見てみよう。

【3】『かわいそうだと思ふ心(仁)、悪を恥じ憎む心(義)、譲りあいの心(礼)、善悪を判断する心(智)、人間は生まれながらこの四つの芽生えを備えている。自分に備わっているこの四つの芽生えを育てようと思えば火が燃え出し、泉が湧き出るように限りなく大きくなつていく。これを育ててゆけば、天下を安定することが出来る。しかし育てなければ、父母を養うことすらできない』

…ここだ。孟子の思想の根幹であり、性善説の根拠をなす「四端説」という。

【4】『仁の心がなく、智に欠け、礼を忘れ、義を知らぬ人は奴隷でしかない』

…これは強烈な指摘。

【5】『心せよ、心せよ、なんじの行いは、なんじにかえる』

…戦で武将が三十三人も戦死したのに人民は誰一人として武将のために命を投げ出さなかつたと君主が嘆く。孟子は君主に忠告した。「飢饉(きぎん)で人民が飢えている時にあなたは食糧を開放せず

多くの年寄りや子供を野垂れ死にさせた。人民を見殺しにした報いが還ってきただけですよ」と。

【6】『禍(わざわい)にせよ、福にせよ、すべて自ら招くものだ。天が降した災難は逃れることも出来るが、自ら招いた災難は決して逃れられない』

…世の中に自業自得でないものは何ひとつないと言えそう。

【7】『他人から善を学びとつては実行にうつす。君子にとつて、これほど有意義なことはない』

…孔子の弟子の子路(しろう)は、自らの過失を指摘されると「喜んだ」という。

【8】『道になつた人には味方が多い。極端な場合には、天下の人民がみな味方となる。道にはずれた人には味方が少ない。極端な場合には、親戚までがそっぽを向く。天下を味方につけた者が、親戚にまでそっぽをむかれた者を攻めるなら勝敗はおのずから明らかだ。従つて君子は戦わずして勝つものだが、戦つた時は必ず勝つ』

…君子は戦わずして勝つ。ここだ。(以上「中国の思想」孟子「徳間書店

より「梁恵王」「公孫丑」)